第3回「四日市市学びの会」報告書

文責：内部東小学校　加納

平成 24 年 2 月 10 日（金），第 3 回「四日市市学びの会」がなやプラザで行われました（参加者 11 名）。前回に引き続き，先輩教師を招き，『先輩教師に学ぶ』という主旨のもと，会を進めていきました。会は，「学びの共同体」冬季研究会の還流報告（日永小　林先生），四日市市立泊山小学校の山下一之先生からの講演『学校行事をどのように学級経営に生かすか』の 2 本立てで行われました。最後に，一人ひとりが学んだことを交流し，閉会しました。還流報告や報告後の討議，講演の中で学んだこと・考えたことを自由気ままに綴りたいと思います。なお，［　　］内は，各項目に関連した参加者の感想（学び）です。

1　還流報告『学びを成立させるために』

授業のねらい

共有の課題（資料２）

【必要な公式】
①三角形の内角は 180°
②折り曲げた時の対応する角は等しい

ジャンプの課題（資料３）

【必要な公式（共有＋α）】
③正方形の**四つの辺**や角は等しい【1 つの角は 90°】
④二等辺三角形の**二辺は等しく**，その底角も等しい

角度を求める際に**辺に注目する**という図形の見方が広がる

＊番号は，必要な公式の数だけではなく，順番も表す

（１）ジャンプの学びは，子ども一人ひとりそれぞれ

角度を求める時、辺にも注目しなければならないところに「ジャンプの学び」があることがねらいとされた実践であった。しかし，子ども一人ひとりの図形への認識は違うため，必ずしも【公式③・公式④】のところを子どもが学ぶとは限らない。2 つ目の問題で【公式①⇒公式②】【公式②⇒公式③】を学ぶ子どももいるに違いない。一人ひとりが学ぶポイントは違うが，どの子も学ぶ要素（新しい図形への気づき）が含まれている課題を設定することが必要である。言い換えると，教師が全体へ投げかけるテーマ（図形の見方を広げる）の中に，いくつ細かい隠されたのねらい（見方が広がるポイント，どこに子ども達は引っかかるのか）を持っているのかということだろう。大変難しいが，これこそ学び合いのビジョンである「質と平等の保障」に挑戦することになっていく。

○ジャンプの学びの所で，具体的に算数ではどのようなものがジャンプの課題となるのかが実感できました。
○習熟度別はどういうときに活かされるか（ダメだと思っていたけど，効果的なときもある）
○高い課題の設定，教科の本質も大事だけど･･･やっぱり一人一人の子どもを見る，接することからいろいろな事が本当の意味で見えてくる

（２）盗み見で理解できたらすごい

「隣の子のノートやプリントをこそっとのぞく。」という行為は，通常自分の力で問題を考えることを放棄した悪いこととされている。確かに隣をのぞくとき，ただ単に「答え（正解）」だけを求めている時には，何の学びにもならない。しかし，学び合いの視点に立ち，課題に取り組むときに「やり方や意味（納得解）」を学級全体が大切にしているならば，この「のぞく」という行為で理解しようとするのは，教えてもらうよりも高度な力が必要となる。なぜ机が２つ横に並んでいるのか，その意味を考えたい。さらに「のぞいてもよい」ということをルール化し，学ぶための１つの方法とするのも良いだろう。

（３）課題のスタートは個人作業？ペア・グループ活動？

「この問題は学力の高い子には簡単だけど，○○さんはすぐに解けないかな。」「みんな初めは苦労するだろう。」このような子どもの具体的な子どもの反応のイメージを持たずにやみくもに課題を出してしまうことが多い。初めは一人で考えた方が良いのか，初めからペアやグループで考えた方が良いのかという議論はよくされるが，方法論を考える前に，課題を出す時の子どもたちの反応をイメージすることが大切だろう。子どもの姿がイメージできれば，よりよい方法が見つかっていくのかもしれない。

（４）「わからない」「教えて」という声を積極的な意味で捉える

教室では「できた子は教えてあげて」という声がよく聞かれる。この言葉かけは，教わる側からしたらお節介と感じる可能性がある。一方で，報告にあった図形の実践を行ったクラスでは「訊かれるまで教えてはいけない」というルールがあるそうだ。学び合いでは「聴き合い」をベースとしている。そのため，困っていることを話し合いの中心にし，進んで友だちに聞けることが素晴らしいことだとクラスで位置づけ，教師の言葉も「困ったときは周りの子に聞きましょう。」と変えていきたい。

2　山下先生講演『役立つかもしれない学級経営について』

（1）教師の想いと子どもの想いの合作でつくる「学級目標」

学級目標は話し合いで決めることが多いが，子どもの話し合いだけでは「協力・楽しい・仲良く」といったよく耳にする言葉となり，意識できるような目標となりにくい。教師が抱く育ってほしい子ども像を目標の中心に置き，学校行事のときにも指導との一貫性を持たせることが必要である。また，基本的には子どもが主となり物事を進めていくことが大切であるが，活動の中でつまずく時やポイントを予想し，見極め，適切な指導ができるための準備（教材研究）が仕事となる。

〇つまずきの時が教師の出場（でば）
〇イベントごとに山下先生が熱意や味わわせたいことをもっていると聞き，自分はイベントをこなすとしか思っていなかったと分かりました。教師が熱意をもち，それを子どもたちにも考えさせる（やる意味をもたせる）ことが大切だと分かりました。
〇学級目標と子どもの姿のリンク
〇行事を点としてではなく，線として捉えているところ。（私は目の前の行事のことだけしか考えず指導してしまっている。ゴールを見据えて指導していない）

（2）「できるようにしたろ」と決めてかかる

ある活動を行うとき，「この子だったらできる」と決めてかかることで，本当に願っている姿に近づいていく（ピグマリオン効果）。教師が「できる」と子どもをプラスに見ようとすることで，プラスの言葉をかけるようになっていく。その子にかける言葉は，その子自身だけではなく周りの子も聞いている。周りからの目も少しずつ変わり始め，期待に応えようとする姿勢が芽生え始める。友達同士の関係が思わしくないときにも，直接問題について働きかけるだけでなく，関係を変化させる（見る目が変わる）ようなかかわりを心がけたい。

〇先生の見方や考えが子どもにうつる
〇気になる子・気になることをつぶすのではなく，違う面を見つけクラスに広めることで，子ども同士の関係が変わる。やっぱり自分の捉え方も関係もくずすのって大事。
〇その子のいい部分も弱い部分も含めてその子の気付いていないことを引き出す。それがその子の個性となり，その子が愛おしくなる。

（3）学校に新しい風を入れる視点

学校行事は，セレモニー（儀式）とフェスティバル（祭典）の２つに分けられる。セレモニーでは，学校の古からのしきたりが大切であるが，フェスティバルでは新しいものを取り入れていく必要がある。しかし，20 年前から 6 年生を送る会の壁面飾りが変わっていないということも多々見られる。新しいことを考えるとき，演出はテレビ番組から取り入れることができ，掲示のヒントは街にありふれている。身近に潜んでいるヒントを柔軟に取り入れる高いアンテナを持ちたいものである。

3　授業で学んだことの共有の仕方（ゲーム『35』）

最後に，会の中で参加者一人ひとりが学んだことを共有する方法として，『35』というゲームが紹介された。

≪ルール≫
【① 学んだことを用紙に書く】
【② 合図があるまで出会った人と用紙を次々と交換していく】
【③ 合図があったらペアになり，お互いに持っている用紙に書いてある学んだことに対して7点を振り分ける（EX：6点と1点，4点と3点）】
【④ ②と③を5回繰り返す】
【⑤ 5回終わったら最後に持っている用紙の点数をすべて足し（35 点が満点），点の高いものをいくつか発表（点が高いものが素晴らしい学びではなく，点が高いものは参加者の“いまーここ”で関心の高い知を意味する。もちろん点が低い学んだ事柄も重要）】

＊①－個人作業，②③④－ペア活動　⑤－全体

この方法は，授業で学んだことの共有だけではなく，国語の「俳句」の授業などでも活用できるのではないかと参加者から提案された。

≪山下先生からもコメントをいただいています≫

若手の人が集まり，学習会を本気でしているのは大変うれしく思いました。本気と熱意は伝わります。

≪資料１≫　還流報告スライド

～学びを成立させるために～

四日市市立日永小学校
教諭　林直哉

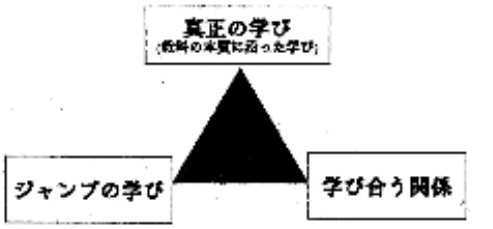
問題意識

- 「学びの一体化」や「学び合い」など「学び」という言葉をよく耳にする

「学び」を授業で成立させるためにはどうすればいいの？

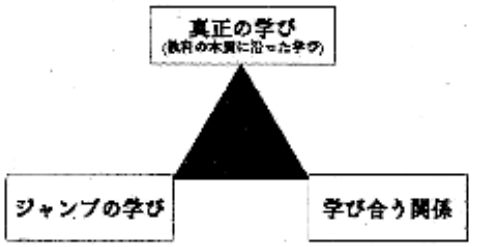
学びを成立させる３つの条件

佐藤学さんの講演より



学びを成立させる３つの条件

佐藤学さんの講演より



ジャンプの学び

この問題で使う公式
②正方形の四つの辺や角は等しい（一つの角は９０度）
③三角形の内角の和は１８０度
④二等辺三角形の二辺は等しく、その底角も等しい

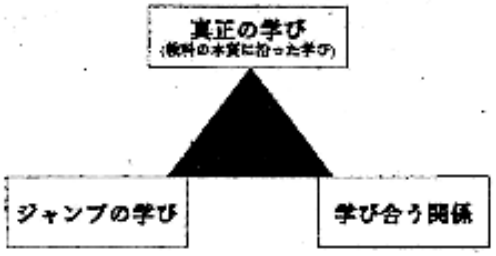
- ２枚目は角だけでなく辺にも注目しなければいけない

➡ 図形の見方が広がった　ジャンプした

- ジャンプの課題
  →共有の学び(１枚目)＋α
  できる子は＋αに挑戦できる。
- 入試レベルの問題

学びを成立させる３つの条件

佐藤学さんの講演より



学び合う関係

- わからないことからスタート
- 「ねえ、ここどうするの？」　学び合い≠教え合い
- 学び合いが生まれるための場づくり
  机の配置をグループの形にしておく
  →自然とつぶやきがおこってくる
- 学び合う関係づくり
  「わからない、教えて」と言われるまで教えない(待つ)
  というルール作りが大切

学んだこと

- 教科の本質に沿った教材研究「○○とは何か」
- ジャンプすることができる課題の設定
- 「わからない、教えて」と聴き合える関係づくり

学びの共同体研究会

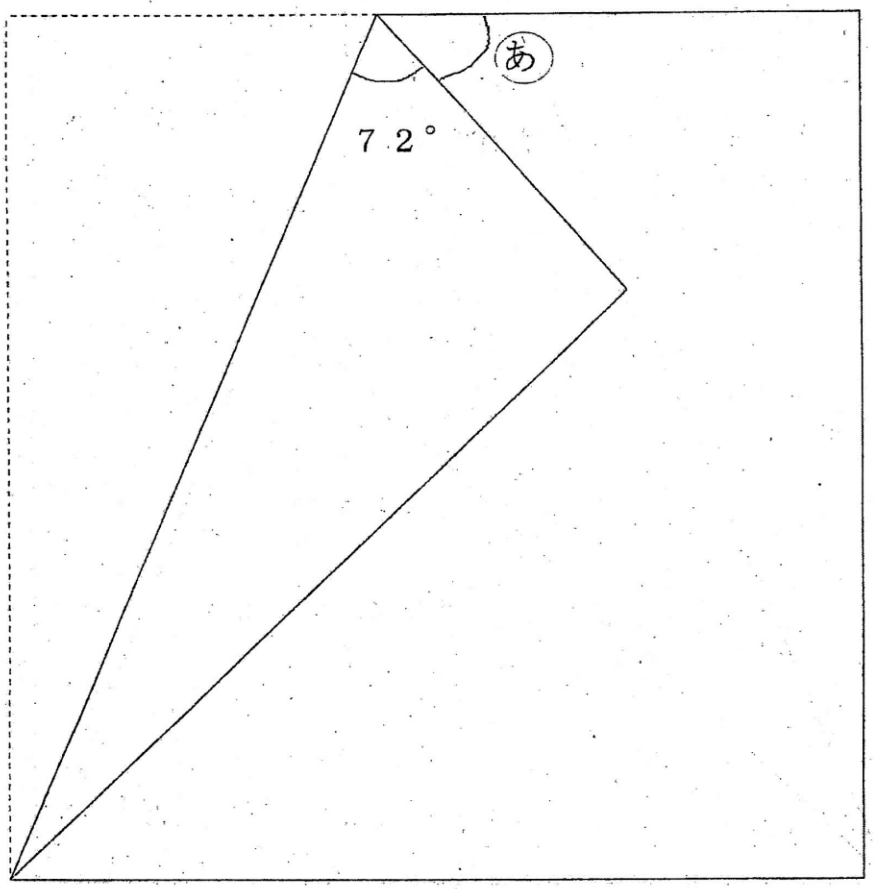
- 詳しい講演の内容、分科会の発表について
- ＨＰ：www.justmystage.com/home/manabi/
- 夏季研究会：平成２４年８月４日(土)・５日(日)
  会場　伊東ホテル聚楽

≪資料２≫　図形の実践「共有」の課題

算数プリント　～折りまげたら何度？①～

1　図のように正方形を折りまげた時にできる角(あ)の大きさを求めましょう。

※わかった角度を書きこんでみよう。



答 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

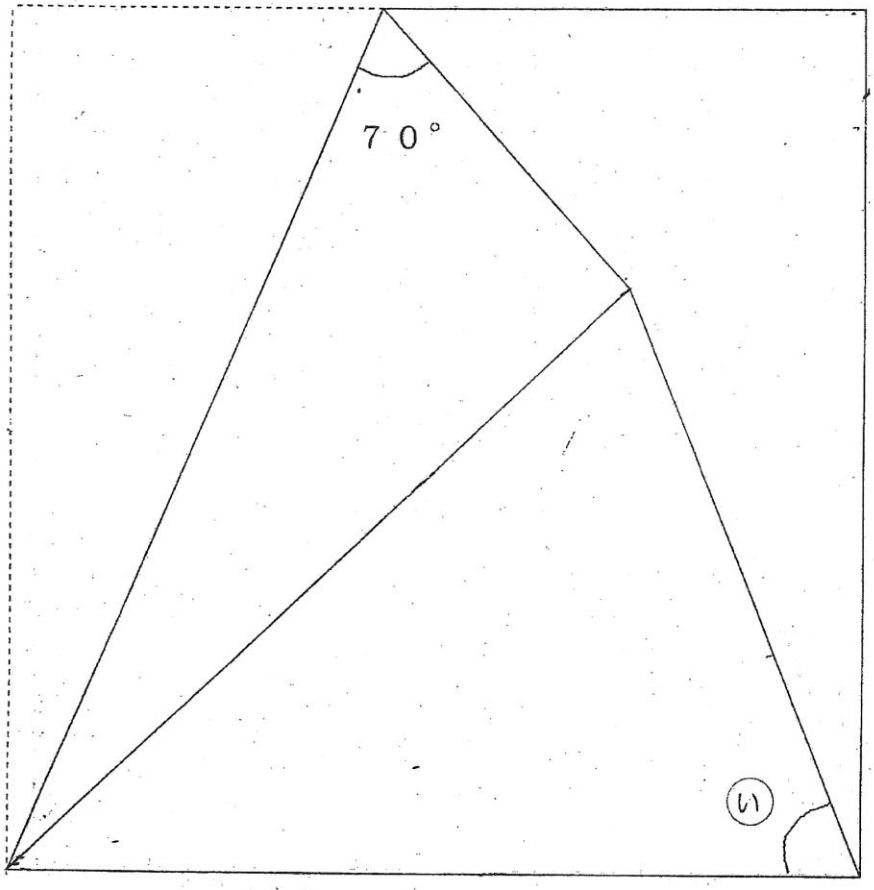
５年（　）組（　）番（　　）

≪資料３≫　図形の実践「ジャンプ」の課題

算数プリント　～折りまげたら何度？②～

1　図のように正方形を折りまげた時にできる角(い)の大きさを求めましょう。

※わかった角度を書きこんでみよう。



答＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

５年（　）組（　）番（　　）

≪資料５≫　山下先生講演レジュメ

役に立つかもしれない学級経営について

１．教育は内側から

「北風と太陽」

＊　《しないわけには　いかない》学習から、子どもたちの内発的必然（内発的に動機づけられた）にもとづく《しないではいられない》学習への転換。

２．集団目標と個人目標の実現

学級目標は重要　　４年Ｃ組は「全力集中」

・　学級目標が単なる飾りものとならないように、子どもたち一人ひとりの具体的な目標として設定され、改善されていくようにすることが大切。

・　個が集団に埋没せず、個が集団を高め、集団が個を生かしていく、子どもたち自身による「育ち」が育まれる。

・目標について

①　挑戦すればできそうだという現実的な目標を立てる。
②　漠然としたものでなく、数値で表すなど、表しやすい具体的な目標を立てる。
③　長期的な目標を立てるとともに、学期ごとなど段階的な目標を立てる。
④　目標の実現に向けて、楽しみながら挑戦できるようにする。
⑤　目標を実現する心地よさ、達成感を味わうような相互評価の場を設定する。
⑥　成功体験を集団として、また個人としてイメージできるように蓄積する。

例（行事の利用）「長縄記録会」　休み時間に子どもたちと共に取り組む。
結果を出せるよう子どもたちと一緒に頑張る。一人ひとりをよく観て。

３．子どもの「伸び」をみとり、ほめる場を

①　ほめた理由を言う
②　内面をほめる
③　小さなことをほめる
④　具体的にほめる
⑤　繰り返しほめる

４．一流の指導者となるために

二流の指導者「教える」　　一流の指導者「気づかせる」

二流の指導者「自主性に任せる」　　一流の指導者「気づかない能力を引き出す」

二流の指導者「何でも言うように話す」一流の指導者「言いにくいことを言えるシステムをつくる」

水先案内人（山本教授）　（教師でなく導師か）

ＰＳ

＊・すっきりした個性（その場に応じた服装など）　　ネクタイ　　スカート

・ハンカチ・ティッシュ

・ジャージを大切に

・小学校では朝「おはよう」から始まり「さようなら」まで担任　学級王国

・　記憶に残る教師・授業を。そのためには教師の熱意が必要

すべて準備ができてからでなく教師が一生懸命やれば子どもは認めてくれる。

今を撮る

音楽・ベストアルバムを作っておく。（自然教室ベスト・卒業式ベスト・体ほぐしベスト）

５．残りの三学期

６年生を送る会

５年生

学校全体で取り組む（組織として）

子どもたちと教師が考え、子どもたちが行動できるような実行委員会

演出（テレビを参考に）

体育館の掲示（街を観て）

教師は古いまま継続していく（子どもは知らないことがある）・新しい感覚を若手で

各学年の出し物

これも演出

若手が四日市の教育の活力となる

しかし、まだまだ負けられない。